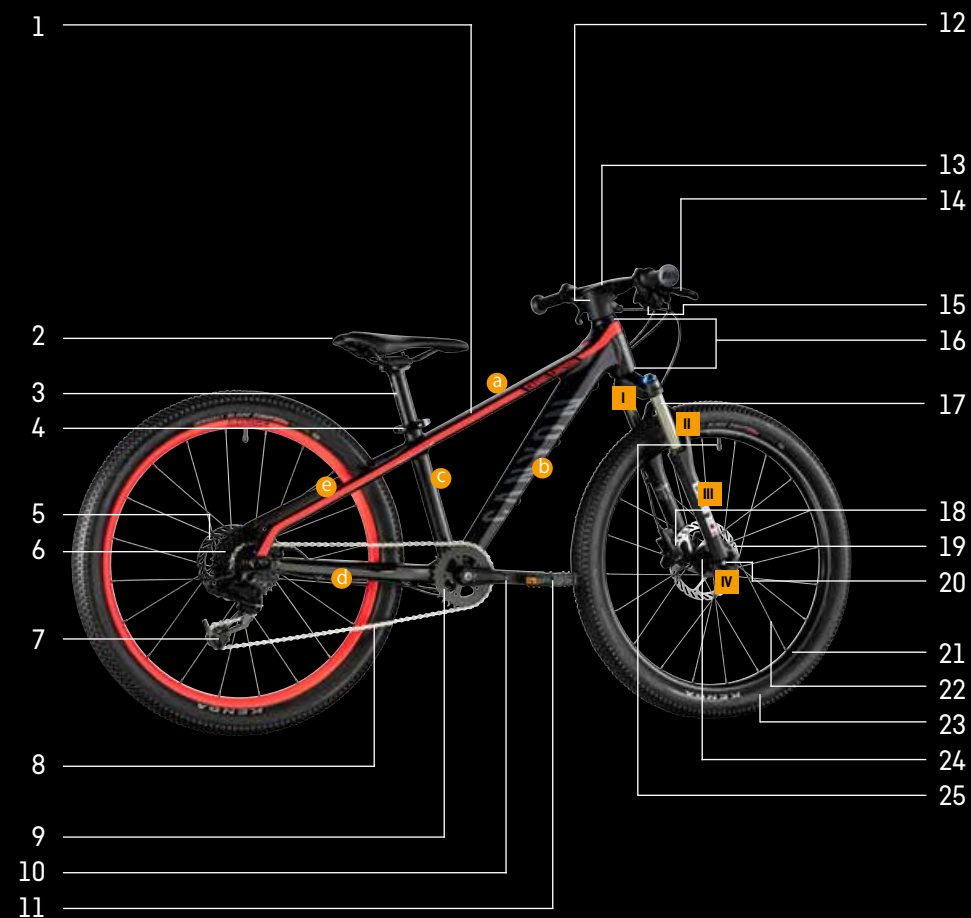


PURE
CYCLING

マニュアル

KID'S MTB



お客様がお買い上げになった自転車および本取扱説明書は、EN ISO規格4210-2の基準に適合しています。

CANYON

各部品の名称

- 1 フレーム：
 - a トップチューブ
 - b ダウンチューブ
 - c シートチューブ
 - d チェーンステイ
 - e シートステイ
- 2 サドル
- 3 シートポスト
- 4 シートポストクランプ
- 5 ブレーキディスクリア
- 6 スプロケット
- 7 リアディレイラー
- 8 チェーン
- 9 チェーンリング
- 10 クランクセット
- 11 ペダル
- 12 ステム
- 13 ハンドル
- 14 ブレーキレバー
- 15 シフトレバー
- 16 ステアリングヘッド
- 17 サスペンションフォーク：
 - I クラウン
 - II インナーチューブ
 - III アウターチューブ
 - IV フォークエンド
- 18 フロントブレーキ
- 19 ブレーキディスク
- ホイール：
 - 20 クイックリリース/スルーアクスル
 - 21 リム
 - 22 スポーク
 - 23 タイヤ
 - 24 ハブ
 - 25 バルブ

本取扱説明書について

下記のマークには特別な意味がありますのでご注意ください。

それぞれのマークは、次のような危険を表しています。危険性についての説明がなくてもこのマークを見たら必ず注意が必要です。



このマークは、指示に従って行動しなかったり、適切な予防対策をとらなかったりした場合に、生命や健康に対する危険が生じる可能性があることを意味します。



このマークは、不適切な行動により、物を破損したり、環境に害を与たりする恐れがあることを意味します。



このマークは、製品の取扱や取扱説明書の各項目に関する、特に注意の必要な情報であることを意味します。

目次

- 2 ご挨拶
- 4 ご両親へのお願い
- 6 意図される使用
- 8 初めて乗車する前に
- 10 乗車前に必ず確認
- 12 BikeGuardから取り出して組み立てる
- 26 Canyon Kid's MTBの梱包
- 27 クイックリリースとスルーアクスルの取り扱い
- 27 ホイールを確実に固定するには
- 29 スルーアクスル式ホイールの取り付けに関する注意事項
- 29 車軸ナット式リアホイールの取り付けに関する注意事項
- 30 アクセサリの取付や改造を行う際の注意事項
- 31 カーボン素材の注意事項
- 33 転倒してしまったら
- 35 お子様の身体に合わせた Canyon Kid's MTB のフィッティング
- 36 適正なサドルの高さ
- 38 サドル・ハンドル間距離とサドルの調整
- 39 サドルの位置と角度の修正
- 40 シフトレバーとブレーキレバーの調整
- 41 ブレーキレバーの握り幅調整
- 42 ブレーキ
- 43 変速機
- 44 サスペンションフォーク
- 45 アクセサリ
- 46 手入れと点検についての一般的注意事項
- 46 Canyon Kid's MTBの洗車と手入れ
- 48 Canyonの置き場所と保管
- 49 整備と点検
- 50 点検・整備頻度
- 52 推奨締め付けトルク

弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版もご覧ください。
重要：組立方法は12頁/初めて乗車する前に必ず4～11頁をお読みください。

CANYONの製品をお買い上げ頂きましてまことにありがとうございます。

この説明書では、お買い上げになったお子様のCanyonのKid's MTB取り扱いに関するヒントや、自転車の仕組みと整備および手入れなどについてお客様とお子様の役に立つ情報を盛りだくさんにご紹介してあります。この説明書を最後までよく読んでください。自転車には子供の頃から乗っているのもう慣れているという方も、きっと役に立つ情報があります。最近の自転車の進歩は、めざましいものがあるからです。お客様の知識をお子様にも教えてあげましょう。

お子様がいつも楽しく安全にCanyonに乗れるように、お子様と一緒に本説明書を最後までよくお読みになって、特に「ご両親へのお願い」の項にご注意ください。

- ▶ 「BikeGuardから取り出して組み立てる」の項にある組立方法の解説通りに作業すること
- ▶ 「初めて乗車する前に」の項にある注意事項をお子様と一緒に一つ一つ確認して守ること
- ▶ 「意図される使用」の項を読んで、お買い上げになったお子様のバイクがどのような用途のためのものか、また許容総重量(ライダー体重・ウェア・携行品)がどれくらいかを確認する
- ▶ 乗車する前には必ず最低限の機能点検をお子様と一緒に行うこと。機能点検の方法については、本説明書の「乗車前に必ず確認」の項をご覧ください。この点検で少しでも問題があった場合には、絶対にお子様を自転車に乗らせないでください。

本説明書は、Canyonマウンテンバイク取扱説明書完全版と合わせて一つの体系を構築しています。ですから弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版を必ずご覧ください。付属のコンポーネントメーカーの説明書もお読みください。

本説明書には、一連の整備・修理作業を詳しく説明してあります。該当する作業をお子様と一緒に行う場合には、記載されている方法や注意事項がこのCanyon Kid's MTBのみに関するもので、他の自転車には適用できない点に常にご留意願います。

多数の異なる仕様が存在し、モデルチェンジも頻繁に行われるため、記載されている作業内容が完全なものでない可能性があります。そのため、弊社のサプライヤーであるそれぞれのパーツメーカーの取扱説明書がBikeGuardに入っていますので、必ずこちらに目を通してください。

記載されている解説やヒントは、作業を実施する人の経験や手先の器用さ、また使用する工具などによっては、さらなる補足が必要であったり、他にも(特殊)工具や、記載されていない手順が必要となる可能性がありますので、ご注意ください。

弊社ホームページ www.canyon.com には、簡単な修理や整備の作業を説明する動画も多数掲載されていますのでご利用ください。ご自分の安全のためにも、無理な作業はしないようにしてください。自信がなかったり、疑問がある場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 までお問い合わせください。

以下の点にご注意ください。この説明書だけで、お客様やお子様は自転車整備士の技能を習得することはできません。さまざまな自転車と各種コンポーネントの無数にある組合せを、一冊の説明書で網羅することはできません。そのため本説明書では、お買い上げになった自転車と一般的なパーツのみについて、最も重要性の高い注意事項や警告事項を示してあります。またこの説明書は、Canyonのフレームセットから自転車を完全に自作するためのものでもありません。

本説明書で、お子様が自転車の乗り方や交通規則を学ぶことはできません。よって本説明書には、お買い上げになった自転車の説明と、最も重要性の高い注意事項や警告事項のみが掲載されています。

自転車での走行も、負傷の可能性のあるスポーツであることには変わりありません。お子様を自転車に乗らせる時には、そのような危険があることを認識し、承知の上で乗車させる必要があります。お子様の自転車には、自動車のボディやエアバッグのような安全装置がないということをお忘れなく。ですからお子様がいつも適切で身体に合った保護装備(ヘルメット、メガネ、しっかりとしたシューズ、先が細くなったズボン)を身につけているようにご注意ください。

Canyon Kid's MTBでお子様は最高の自転車ライフを楽しめますように。 チーム一同

発行人:

Canyon Bicycles GmbH
Karl-Tesche-Straße 12
D-56073 Koblenz

サービスホットライン: 050-3786-8496
ファックスでのご注文: +49 261 40400-50
Eメール: info@canyon.com

自転車を配送する場合は、参考となる各種の適切な説明書を製造者が添付する必要があります。参考となる各種の説明書は、www.canyon.com にも掲載されていますのでご確認ください。

文、コンセプト、写真、制作:

Zedler - Institut für Fahrradtechnik
und -Sicherheit GmbH
www.zedler.de
更新: 2016年12月, 第1版

© 著者の書面による事前の承認なき転載・複製、翻訳は、それが一部または電子メディアであっても、その他の形での使用と同様に固くお断りします。



弊社ホームページ www.canyon.com にも是非お立ち寄りください。ニュースやお知らせ、役に立つヒントや販売代理店に関する情報が掲載されています。



本説明書は、Canyonマウンテンバイク取扱説明書完全版と合わせて一つの体系を構築しています。ですから弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版を必ずご覧ください。ただし、お買い上げのCanyonはKid's MTBであって、他のCanyon MTBモデルとは意図された用途が異なる設計となっていることをお忘れなく。



本書は、自転車をパーツから組んだり、修理したりするための解説書ではありません。技術仕様の一部が、本説明書に記載の内容および写真とは異なることがあります。お客様がお買い上げになった自転車および本取扱説明書は、EN ISO規格 4210-2の基準に適合しています。本説明書には欧州法が適用されます。



お子様の安全のためにも、無理な組立や調整作業はしないようにしてください。確信が持てない場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 まで。Eメール: info@canyon.com



Canyon Kid's MTBは、ハイエンドのスポーツ用製品です。最高の技術力を駆使した軽量構造が採用されています。お客様とお子様も、自転車の取扱のプロになってください。誤った使用や、不適切な組立、不十分な整備などは、自転車の安全性を損なうことがあります。**事故の危険があります。**

ご両親へのお願い

子供たちは最も弱い交通参加者です。その主な理由は経験や練習の不足ですが、身長が低いために見通しがきかなかったり、他の交通参加者から見えにくかったりすることもその一因となっています。

Canyon Kid's MTBは、オフロードでも路面のしっかりした道であれば走ることができますが、車輪が路面を離れることが許されるのは低い階段や段差を超える時に限られます。Canyon Kid's MTBは、バイクパークでの動作には設計されていません。素材に過度の負担がかかることになって、車輪が壊れて危険な転倒を招く恐れがあります。Canyon Kid's MTBは、道路交通法や同等の法規定で、自転車にリフレクタおよびライトの装備を義務付けている場合の要件を通常は満たしていません。Canyon Kid's MTBで走行する国で、準拠装備なしに公道を走ることが許されているかどうか確認してください。

お子様をCanyon Kid's MTBに乗って走らせる前に、お子様の保護のため、自転車をコントロールするトレーニングと交通安全教育にしばらく時間を使うことをお奨めします。子供たちはあまり気がつかないことが多いので、お客様がCanyon Kid's MTBを定期的に点検し、必要に応じて調整・整備を行うことを習慣にすることをお奨めします。自信がなかったり、疑問がある場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 までお問い合わせください。Canyon Kid's MTBは、その設計および装備から、公道での使用を意図したものではありません。お子様にCanyon Kid's MTBで公道を走らせようとする場合には、そのために義務付けられた各種装置をつける必要があります。詳細は弊社ホームページ www.canyon.com で閲覧できるCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「法律で定められた道路走行条件」の項をご覧ください。



! お子様がいいつも頭のサイズにあった自転車用ヘルメットと、目につきやすい明るい色の服も着用しているようにご注意ください。視認性を向上させるためにリフレクタストリップのついた服もお奨めです。

! 試験規格DIN EN 1078準拠の自転車用ヘルメットであることを確認しましょう。

! Canyon Kid's MTBは、道路交通法や同等の法規定で、自転車にリフレクタおよびライトの装備を義務付けている場合の要件を通常は満たしていません。Canyon Kid's MTBで走行する国で、準拠装備なしに公道を走ることが許されているかどうか確認してください。

! ブレーキの練習をするときは、路面が濡れていると制動力とタイヤのグリップが低下するのでスピードを落として慎重にブレーキをかける必要があることをお子様に教えておくことが大切です。

子供たちはあまり気がつかないことが多いので、お客様がCanyon Kid's MTBを定期的に点検し、必要に応じて調整・整備を行うことを習慣にすることをお奨めします。自信がなかったり、疑問がある場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 までお問い合わせください。

少なくとも最初の何回かの走行時にはご両親に監督義務があることにご注意ください。またお子様に無理をさせないでください。お住まいの国の規定についても調べておきましょう。

お子様が同伴者なしでCanyon Kid's MTBで走行するのは、自転車を確実にコントロールできるようになってからです。そのために第一歩としてキックスケーターやランニングバイクで走らせてみることをお奨めします。お子様がバランス感覚を養うのに役立ちます。

それができたら、お子様にまずブレーキと変速機の機能を説明する必要があります。お子様がCanyon Kid's MTBに乗るのはそれからです。車の通らないところ、一番良いのは人気の無い広場や人通りのない道などで、お子様とブレーキや変速機の使い方を練習しましょう。

うまく自転車に乗れるようになって、車の通らないところでも走れるようになったら、歩道と車道の段差や線路のレールの超え方を教えてあげましょう。段差やレールに向かってできるだけ鈍角に進むように教えます。ただしその前に前方や後方から危険が迫っていないかを確認する必要があります。

自転車用ヘルメットの着用や自転車道の使用など、率先して良いお手本となるようにしましょう。また、学校や交通安全協会などが実施する交通安全教育にお子様を参加させることもお奨めします。



! 子供たちはとかく格好を気にするもの。だから、お子様自身が気に入った自転車用ヘルメットを買うようにしましょう。そのために、またサイズが合うかどうかを確認する意味でも買うときにはお子様を連れて行きましょう。自分で気に入ってサイズがあっていれば、命を守る大切なヘルメットをお子様がちやんとかぶってくれるチャンスが増します。ストラップを必ず締めるように注意して下さい。

! ヘルメット購入時には、ヘルメットの方法を説明してもらいましょう。ヘルメットの座りが悪いといざというときに十分な保護効果が保証できません。

! 自転車用ヘルメットは自転車に乗るときだけにかぶるようにご注意ください。ジャングルジムで遊んでいてヘルメットが引っ掛かりストラップで首が絞まるなどの事故が発生する恐れがあります。

! 子供が崖や階段、プールの近くや、自動車を通る道路で自転車に乗らないようにしてください。

意図される使用

さまざまなタイプの自転車の用途を定義するために、弊社の自転車はいくつかのカテゴリーに分類されています。このような分類を行う目的は、すでに自転車開発の段階でそれぞれの負荷に合わせたテスト要件を規定することで、完成した製品をお客様が使用する際に最大限の安全性を確保することにあります。

これはすなわち、意図される使用の範囲を超えて自転車を使用しないことが極めて重要であることを意味し、そうしないとその自転車の負荷限度を超えフレームやその他のコンポーネントが破損する可能性があります。その結果、重大な転倒事故につながる恐れがあります。

Canyon Kid's MTBと携行品を含めたライダーの最大重量は40 kgまで、タイヤ24インチの弊社モデルでは携行品（リュックサックやハイドレーションパックなど）を含め80 kgまでです。

お客様のCanyon Kid's MTBがどのカテゴリーに属するかは、フレームに表示されている以下のマークを見ればわかります。自転車のカテゴリーがよくわからない場合には、弊社のサービスセンターにご遠慮なくお問い合わせください。

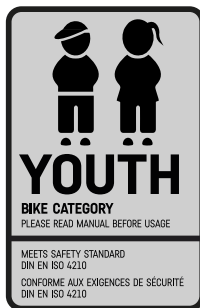
カテゴリーYOUTH

「Youth」カテゴリーの自転車は子供用です。Canyon Kid's MTBの使用は、オフロードで路面のしっかりした道で行われますが、車輪が路面を離れることが許されるのは低い階段や段差を超える時に限られます。

このカテゴリーの自転車では、ライダーの携行品を含めた最大総重量は20インチまでの自転車が40 kgまで、タイヤ24インチの弊社モデルでは携行品（リュックサックやハイドレーションパックなど）を含め80 kgまでです。

子供が監督なしで自転車に乗ることは絶対に許されません。確実にひとりで自転車に乗れるようになるまで、指導および監督を常に確保することが要請されます。お子様が急な下り坂や自動車道、階段、川などの危険な場所に行かないようにご注意ください。このカテゴリーのCanyon Kid's MTBは、バイクパークでの動作には設計されていません。素材に過度の負担がかかることになって、車輪が壊れて危険な転倒を招き不測の事態に至る恐れがあります。

Canyon Kid's MTBは基本仕様では公道での走行用に設計されていません。必要かつ推奨の保護用品（ヘルメットやグローブ、プロテクターなど）の着用を確認してください。



チャイルドシートの使用は一切認められていません。



チャイルドトレーラーの牽引は一切認められていません。



荷台を取り付けることはできません。お子様が荷物を運びたい場合には、専用のサイクリング用リュックサックを使用するのが唯一の方法です。



常に最新情報満載の弊社のウェブサイト www.canyon.com もご確認ください。ウェブサイトには、モデルごとに用途範囲が図でも分かりやすく表示されています。



固定式のホームトレーナーでCanyon Kid's MTBを使用しないでください。



初めて乗車する前に

お様が走り出す前に、以下の項目をお子様と一緒に確認する必要があります：

1. お子様はマウンテンバイクに乗った経験がありますか？オフロードでの走行には、普段とは違う集中力や体力、技量が必要となりますのでご注意ください。まず人通りの少ない場所でお子様が新しいMTBに慣れさせましょう。お子様といろいろな場所を徐々に走ってみることで、お子様が慣れるようにします。お子様の自転車乗り方教室を申し込みましょう。詳しくは www.canyon.com をご覧ください。

2. ブレーキの操作がお子様慣れているものと違いませんか？通常Canyon Kid's MTBは、前輪のブレーキを左側のブレーキレバーで操作する仕様で出荷されます。フロントブレーキをお子様慣れているいつものブレーキレバーで操作できるかどうかを確認してください。慣れているレバーではない場合には、新しい配置に慣れるまでお子様と徹底的に練習する必要があります。そうしないと、誤って前輪のブレーキをかけてしまい、転倒事故につながる恐れがあります。どうしてもブレーキの配置を変更したい場合には、専門店で改造してもらってください。

新型のブレーキの制動力は、これまでお子様が乗っていた自転車のブレーキよりもはるかに強力である可能性があります。

監督下でお子様に何回かブレーキをかけさせて練習しましょう。そうすればお子様がブレーキを徐々に強く引いてみて、減速が最大になるまで試してみることができます。ブレーキに関する詳細は「ブレーキ」の項をご覧ください。

3. お子様は変速機のタイプとその仕組みを理解していますか？人通りの少ない場所でお子様を変速機に慣れさせましょう。フロントとリアのギアを同時に切り替えないことと、ギアチェンジ中は力を入れてペダルを踏まないようにお子様に教えてください。変速機に関する詳細は「変速機」の項をご覧ください。



 Canyon Kid's MTBは、ハイエンドのスポーツ用製品です。最高の技術力を駆使した軽量構造が採用されています。お客様とお子様も、自転車の取扱のプロになってください。誤った使用や、不適切な組立、不十分な整備などは、自転車の安全性を損なうことがあります。**事故の危険があります。**

 ブレーキレバーの配置は国により異なることがありますのでご注意ください。どのブレーキがどのレバーで動作するかを確認しましょう。お子様が慣れている配置と異なる場合には、改造してもらうことができます。

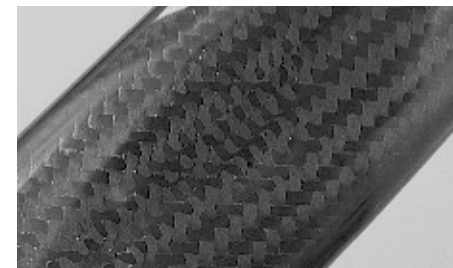
4. サドルとハンドルが適正な位置になっていませんか？お様がトップチューブをまたいでみて、股下に手の幅よりも広いスペースがあるかどうか確認してください。十分な余裕がない場合には、本説明書後述のさらに詳しい解説を読むか、弊社ホットライン 050-3786-8496 までご連絡ください。フレームが大きすぎると、不意に下車しなくてはならなくなった場合に怪我をする恐れがあります。

ペダルが一番低い位置にある状態で、ペダルにお子様のかかとがやっとなれるように、サドルを調整します。お子様がサドルに座った状態で、つま先が地面に届くかどうか確認してください。サドルの位置についての詳細は、「お子様の身体に合わせたCanyon Kid's MTBのフィッティング」の項をご覧ください。

5. お子様Canyonのバイクを所定の用途にのみ使用するようご注意ください。プロがバイクを操作するのを見るのと簡単そうに見えますが、実は大量の練習と経験がその陰には隠されていることをお子様に説明しましょう。お子様が自分の技量を過信しないようご注意ください。通常Canyon Kid's MTBは総重量（ライダー・自転車・携行品を合わせた重量）が40 kgまたは80 kg（24インチの自転車）までに設計されています。この上限を絶対に超えないようにしてください。自転車の用途に関する詳細は「意図される使用」の項をご覧ください。

6. Canyon Kid's MTBにはカーボン製パーツが使用されていますか？カーボンという素材には特に注意が必要で、慎重に取り扱う必要がありますのでご注意ください。必ず「カーボン素材の注意事項」の項をよく読んでください。

7. サスペンション付の自転車をお子様に買った場合には、フォークの空気圧をお子様と一緒に確認してください。BikeGuardに調整用のポンプが入っている場合には、そのポンプを使ってください。設定が誤っていると、サスペンションフォークが十分に機能しなかったり、破損したりする恐れがあります。設定が不適切だと必ず走行特性が悪化しますので、お子様の自転車走行時の操作性にも不安が生じます。詳細は「サスペンションフォーク」の項をご覧ください。

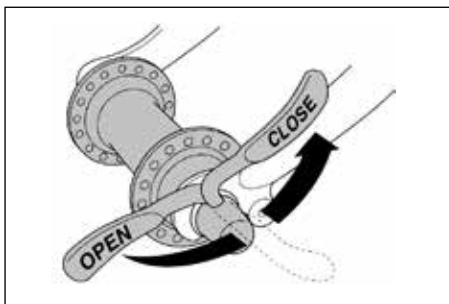


 Canyon Kid's MTBの技術に関する詳細は、弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版をご覧ください。ただし、お買い上げのCanyonはKid's MTBであって、他のCanyon MTBモデルとは意図された用途が異なる設計となっていることをお忘れなく。

乗車前に必ず確認

乗車する時には走り出す前に必ずお子様と一緒に以下の項目を点検してください：

1. シートポストのクイックリリースやスルーアクスルと車軸ナットがしっかりと締まっていますか？詳細は「クイックリリースとスルーアクスルの取り扱い」の項参照。
2. タイヤの状態は良好で、十分なエアが入っていますか？タイヤをそれぞれ回転させて、振れがなく真円であることを確認します。振れを確認することで、タイヤ側部が破損していたり、軸やスポークが破断していたりする場合の早期発見につながります。詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「ホイール — タイヤ・チューブ・空気圧」の項をご覧ください。
3. 停車したままで、ブレーキの状態を確認するため、ブレーキレバーをハンドルの方向にしっかりと引きつけます。少し引いた所からブレーキが効き始め、次第に強くなってゆくはずですが、ただし、ブレーキレバーを最大限に引いてもハンドルの手前で止まらなくてはなりません。油圧式のディスクブレーキでは、液体の漏れがないことを確認します。「ブレーキ」というテーマに関するその他の注意事項は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「ブレーキ」の項をご覧ください。
4. お子様公道や夜間の走行をしたい場合には、ライトの点検をしてください。弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「法律で定められた要件」の項参照のこと
5. Canyon Kid's MTBを軽く持ち上げてから、手を離して地表に落とします。カタカタという異音が出た場合には、その発生源を探します。状況に応じて、各種軸受やボルト接合部を確認してください。



 この項目のどれかに不具合がある場合には、お子様をCanyon Kid's MTBに乗らせないでください。

 クイックリリースやスルーアクスル・車軸ナットが正しく閉じていないと、自転車から部品が外れてしまう恐れがあります。**転倒の危険があります。**

6. 自転車でのライドを安心して楽しむために最も大切なアクセサリは、お子様のサドルの下に取り付けることのできる工具を入れた小さなバッグです。工具バッグには、プラスチックのタイヤレバー2本とよく使用するサイズの六角棒レンチ、タイヤの交換用チューブ、パッチキット、いくらかの現金や場合により携帯電話なども入れておきましょう。エアポンプもフレームに取り付けておきましょう。



7. Canyonを駐車しておきたい時のために頑丈な鍵もお子様を持たせましょう。Canyonを停めておく時は、盗難を防ぐために必ず固定物に繋いだ状態で鍵をかけましょう。



 本説明書は、Canyonマウンテンバイク取扱説明書完全版と合わせて一つの体系を構築しています。ですから弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版を必ずご覧ください。ただし、お買い上げのCanyonはKid's MTBであって、他のCanyon MTBモデルとは意図された用途が異なる設計となっていることをお忘れなく。

 お持ちのKid's MTBの損傷を防ぐために、最大重量を超えないようにして、「意図される使用」の項に記載されている荷物の運搬に関する規則を守ってください。また、自家用車や飛行機でバイクを搬送しようとする時は、事前に弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「Canyonバイクの搬送」の項をお読みください。

 お子様と一緒に「乗車前に必ず確認」の項の点検を行う習慣をつけましょう。そうすればお子様が自転車の正しい取扱を学び、走行中に発生した不具合をお客様が発見することにもつながります。

 自転車の何かがうまく動かなくなったらすぐに教えてくれるようにお子様に言っておきましょう。その不具合をすぐに解消するか、弊社ホットライン 050-3786-8496 までご連絡ください。

 Canyon Kid's MTBには、路面の影響と、お子様がバイクに加える力によって、大きな負荷がかかります。このような動的な負荷を受けた各種コンポーネントには、劣化や疲労が生じます。劣化の兆候がないかどうか、Canyon Kid's MTBをお子様と一緒にこまめに点検して、消耗の兆しや、キズや湾曲、変色などがないか、また小さな亀裂が入っていないかを確認してください。耐久期間を過ぎたコンポーネントは、何の前触れもなく急に破損することがあります。Canyon Kid's MTBを一定の期間ごとに点検にお持ちいただいて、随時消耗部品を交換してもらってください。修理と走行の安全に関する詳細は「手入れと点検について」の一般的な注意事項、「推奨締め付けトルク」、「点検・整備頻度」などの項をご覧ください。

BIKEGUARDから取り出して組み立てる

自転車をBikeGuardから取り出して組み立てるのはお子様と一緒にやりましょう。そうすればお子様が自転車の正しい取扱を学べます。

自転車をBikeGuardから取り出して組み立てるのは難しくありませんが、慎重かつ入念に作業を進めてください。不適切な組み立ては、自転車の安全性を損なう恐れがあります。

まず、お買い上げになったCanyon Kid's MTBには、どのようなパーツがあるかを見てみましょう。

Kid's MTB取扱説明書の表紙についている見開きページを広げてみてください。Canyon Kid's MTBの写真に主要なパーツの名称が書き込まれています。このページを広げたまま、本書を読み進んでください。そうすれば、各項の説明にでてるパーツがどれのことかすぐにわかります。



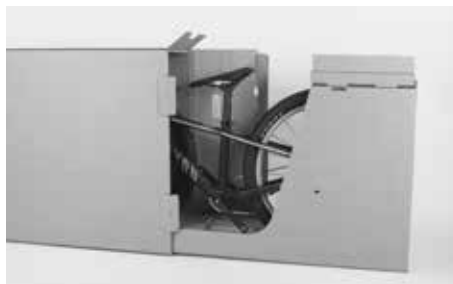
写真はCanyon Kid's MTBの一例です。これとは外観が異なるモデルもあります。

まず、BikeGuardを開封しましょう。



箱を開けるにはカーペット用カッターのような刃先の短いカッターを使用してください。自転車本体にはカッターを使用しないでください。

BIKEGUARDの同梱品を確認



BikeGuardを片側から開けて、内側の梱包を慎重に外側の梱包から引き出し、外側の梱包は片付けておきます。



BikeGuardの中にはサドルやシートポスト、後輪などが予め取り付けられた組立済フレームセットと、別添の前輪が入っています。

後輪の上の棚にTool Kitが入っています。Tool Kitには、すべての小型パーツ（クイックリリースまたはスルーアクスル、同梱の場合はペダルなど）およびCanyonトルクレンチと交換用ヘッド・ペダルレンチ・Kid's MTB取扱説明書・該当モデルではサスペンションフォーク用ポンプ・Canyonアッセンブリーペースト・リフレクタのセット・コンポーネントメーカーの取扱説明書が入っています。



自転車本体の作業にはカッターを使用しないでください。パーツに傷をつけたり、またご自分が怪我をする恐れがあります。切断する必要がある場合にはハサミを使ってください。

CANYON KID'S MTBの組立に関する一般事項

Canyon Kid's MTBは、工場で完全に組立を終了し、試乗を行ってあります。以下に解説する手順に従って自転車を組み立てれば、調整を行わなくても支障なく機能します。作業が終わったら、お客様が見ているところで、お子様に人のいない広場や道で試乗させてみてください。

以下に組み立て方法をごく簡単に説明します。自転車の組み立てに詳しくない方や、あまり経験のない方は、弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版のさらに詳しい解説を読んでください。付属のコンポーネントメーカーの説明書もお読みください。

詳細情報:



初めて乗車する前には必ず、「乗車前に必ず確認」の項目に記載されている点検作業をお子様と一緒に行ってください。

フレームを内側から3点で固定する作業台を使用するか、お子様と一緒に組み立てる間誰かにCanyon Kid's MTBを支えてもらうのが最適な方法です。

必要な工具一覧



新しいCanyon Kid's MTBを組み立てるにはTool Kitに入っている下記の工具が必要です。

- ▶ Canyonトルクレンチ 交換用ヘッド付(1)
- ▶ ペダルレンチ(2)
- ▶ 該当モデルの場合Canyonアッセンブリーペースト(3)
- ▶ 該当モデルの場合サスペンションフォーク用ポンプ(4)



組み立てる時には、Canyon Kid's MTBのフレームのチューブやカーボン製のシートポストを自転車作業スタンドに固定しないでください。適切なアルミ製シートポストに付け替えて自転車作業スタンドに固定します。



せっかくの新しいCanyon Kid's MTBですから、お子様と一緒にBikeGuardから出して組み立てるのも誰かに手伝ってもらって一緒に楽しみながら作業を進めましょう。

CANYONトルクレンチの使用



部品同士を確実に固定するためには、トルクレンチの使用が不可欠であるとCanyonでは考えています。



サイズの合う交換用ヘッドをCanyonトルクレンチの受けに差し込みます。

六角棒レンチをボルトの穴にしっかりと差し込みます。



クランプボルト（シートポスト、シートポストクランプなど）の最大締め付けトルクを超えると、締め付け力が強くなりすぎます。その結果部品が破損する恐れがあり、事故の危険が大きくなります。さらに、この場合には製品の保証が無効となります。ボルトの締め付けが弱すぎたり、強すぎたりすると、部品が外れたり破損したりして事故につながる恐れがあります。Canyonの指定トルクを必ず正確に守ってください。



Canyonトルクレンチの取っ手をゆっくりと廻します。ボルトが締まるにつれて、針が目盛りの上を動いてゆきます。針が所定の締め付けトルクを示す数字の位置に達したら廻すのを止めてください。



Canyonを組み立てるにはBikeGuardに同梱されているCanyonトルクレンチを使用してください。

CANYONアッセンブリーペーストの使用



カーボン製の部品は、締め付け力が強すぎることによる損傷を特に受けやすい性質があります。Canyonアッセンブリーペーストを使用すると、表面同士の密着度を高めることにより、必要な締結力を最大30%低くすることができます。

Canyonアッセンブリーペーストを使用することで締め付け力を低下させ、カーボン繊維の破損を予防することができます。また、締め付け部から異音がすることを防ぐ効果もあります。

さらに、防食性も最適で、濡れた状態でも腐食を効果的に防止します。Canyonアッセンブリーペーストは、カーボン製およびアルミニウム製の結合部すべてに使用することができます。硬化しないため、この用途に最適です。



これは特に、ステアリングコラムとステム、シートポストとシートチューブなどの二箇所の締め付けに重要で、締め付け力が強すぎると部品が破損する恐れがあり、また保証が受けられなくなります。



Canyonアッセンブリーペーストを塗る前に、部品の表面の汚れや潤滑油の残りを取り除いてください。そしてきれいになった表面に、刷毛やセームタオルなどを使ってCanyonアッセンブリーペーストを薄く均一に塗ります。

ペーストを塗ったら部品を所定の位置に取り付けます。



マウンテンバイクのシートポストには必ずアッセンブリーペーストを使用してください。確実に固定することができます。シートポストの高さを変えると、表面にいくらか傷がつきます。これは通常の消耗ですので、クレームの事由とはなりません。

Canyonトルクレンチを使って、所定の最大締め付けトルクを絶対に超えないようにしてください。多すぎたCanyonアッセンブリーペーストは拭き取って、ペーストの袋をしっかりと閉じます。

取り出す



後輪の上の棚からTool Kitが入った段ボール箱を取り出して横に置いておきます。



フレームをBikeGuardのホルダーから慎重に取り出して、倒れないように置いてください。手伝ってくれる人がいる場合には、自転車を支えていてもらいましょう。



前輪をしっかり持ってください。前輪をトップチューブに留めてあるマジックテープを慎重に外します。前輪を慎重に横に置いておきます。

詳細情報:



自転車作業スタンドを使うか、誰かに手伝ってもらうと、簡単かつ確実に自転車を組み立てることができます。



梱包材とBikeGuardはすべてそのまま乾燥した場所に保管しておきましょう。そうすれば、自転車をどこかに送ったり、輪行したりする時に再利用できます。

前輪の取り付け



前輪のブレーキから輸送用のパッドスペーサーを抜き取ります。ブレーキに関する詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「ブレーキ」の項をご覧ください。付属のコンポーネントメーカーの説明書もお読みください。

クイックリリース式の前輪



前輪用のクイックリリースをTool Kitから取り出します。反対側のナットを廻して外し、スプリングを1本クイックリリースから抜き取ります。



ディスクブレーキが搭載されている場合には、ホイールを取り付ける前に、ブレーキパッドがキャリパー内の受けにぴったりと納まっていることを確認してください。判断の基準になるのは、パッドの隙間が平行になっていることです。



クイックリリースを前輪の空洞になっている軸に差し込みます。

ハブの両側にそれぞれ1本ずつスプリングを配置します。クイックリリースのどちら側でも、スプリングの直径の小さい方が、ハブ軸側に向いていることを確認してください。クイックリリースのリリースレバーは、左側(チェーンの反対側)に取り付けます。



ホイールが正しく取り付けられていないと、重大な転倒や事故につながる恐れがあります。少しでも不安があったり、ご質問がありましたら弊社のホットライン 050-3786-8496 までお問い合わせください。



クイックリリースの反対側のナットは2回転だけ締めてください。クイックリリースに関する詳細は「クイックリリースとスルーアクスルの取り扱い」の項をご覧ください。付属のコンポーネントメーカーの説明書もお読みください。

前輪とハンドルを固定している保護用段ボールを慎重に取り外します。



前輪を取り付けます。ブレーキディスクがブレーキパッドの間に入るように注意してください。クイックリリースを、ホイールがしっかり固定されるように閉じます。その前に「クイックリリースとスルーアクスルの取り扱い」の項を読んでおいてください。

ホイールを持ち上げて、上からホイールを強く叩いてみます。ホイールが確実に固定されており、ガタガタ異音がしないことを確かめます。



前輪を取り付けたら、フォークのブレードの中央に前輪が位置していることを確認します。クイックリリースと脱落防止の爪がしっかりと固定されていることを確認してください。

ホイールを取り付けてクイックリリースを閉じたら、ブレーキレバーを何度か繰り返し引いてください。そうしてから、ホイールを回転させます。

詳細情報:



回転するローターがキャリパーに擦れてはいけません。またブレーキパッドに擦れるのも通常の状態としては許されません。

! ディスクブレーキのブレーキパッドが新品の場合には慣らしが必要で、パッドが慣れるまではブレーキの効きが最善の状態にはなりません。詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「ブレーキ」の項をご覧ください。

スルーアクスル式の前輪



前輪用のスルーアクスルを小型パーツの入ったTool Kitから取り出します。

ホイールをフォークに嵌めて、その時にブレーキディスクがキャリパーに入るようにします。



アクスルのネジ山がフォークの右ブレードのネジと嵌合したら、スルーアクスルを所定のトルクで締め付けます。この作業にはCanyonトルクレンチを使ってください。



両側の受けの間で前輪の位置を合わせ、左側から受けとハブを通してスルーアクスルを差し込みます。



ブレーキレバーを数回引いてブレーキが作動することを確認します。レバーを握り幅の三分の一引いた時点では必ずブレーキが効き始める必要があります。ホイールを持ち上げて、上からホイールを強く叩いてみます。ホイールが確実に固定されており、ガタガタ異音がしないことを確かめます。

! ホイールが正しく取り付けられていないと、重大な転倒や事故につながる恐れがあります。少しでも不安があったり、ご質問がありましたら弊社のホットライン 050-3786-8496 までお問い合わせください。

i 通常スルーアクスルには、メーカーの詳細な説明書が添えられています。説明書の内容をよく読んでから、ホイールの取り外しや整備作業をするようにしましょう。



Canyon Kid's MTBのサドルを持って持ち上げ、クランクを廻してみます。変速機の機能を確認します。変速機の調節に関する詳細は「変速機」の項をご覧ください。

ペダルの取り付け



ペダルを取り付けるには、まず軸に書かれている文字を見てください。Rと書いてあるペダルが右でLと書いているのが左のペダルです。

左のペダルは左ネジで、ネジを締める時に廻す方向が通常とは逆の反時計回りになっていますのでご注意ください。



ギアを全段切り替えてみて、リアの一番大きな歯車にチェーンが掛かっている状態で、ディレイラーがスポークに接触したり、チェーンが内側に落ちてスポークにぶつかったりする可能性がないことを確認してください。

⚠ ホイールの取り付けが終わったら、停車状態でブレーキのテストを行ってください。ブレーキレバーがハンドルにつくよりも先にブレーキが効くようになっていなくてはなりません。液圧式の場合には確実にブレーキが効くようになるまで必要に応じレバーを数回引いてください。

サドルとシートポストの調整



梱包材に組み込まれたKidFitシステムを使って股下寸法を測ってください。

適正なサドルの高さについての詳細は添付のクイックスタートガイドにも記載されています。

その後の手順については「お子様の身体に合わせたCanyon Kid's MTBのフィッティング」の項をご覧ください。



最初の二三回は手でペダルをクランクのネジ穴にねじ込みます。それからペダルレンチを使ってペダルが固定されるまで廻します。



六角棒レンチで内側から締め付ける必要があるタイプのペダルもあります。

⚠ ペダルの固定状態を100 km走行後にもう一度確認してください。ペダルが緩んでネジ山を破壊してしまい、転倒の原因となる可能性があります。また、それ以外のボルトもしっかりと固定されているかどうか、締め付けトルク値に従って点検してください。



⚠ 「適正なサドルの高さ」の項にある注意事項および「手入れと点検についての一般的注意事項」の項に記載されている許容締め付けトルクを守り、コンポーネント自体に表示されている所定値も遵守してください。

⚠ シートポストを必要以上にシートチューブに差し込まないでください。アッセンブリーペーストによってシートポストには少し傷がつきます。これはクレームの事由とはなりません。

もしくは、お子様がこれまで乗っていた自転車のボトムブラケットからサドル中央上端までの距離を測ってみましょう。新しいCanyon Kid's MTBでもサドルの高さを同じに調整します。

シートポストに必要なサドルの高さに合わせてシートチューブに差し込みます。



サドルの向きを合わせて、シートポストクランプのクイックリリースを締めるか、ボルトを強すぎないように(すなわち最大許容トルク以下で)締めます。必要に応じてCanyonトルクレンチを使ってください。クイックリリースに関する注意事項は「クイックリリースとスルーアクスルの取り扱い」の項をご覧ください。

サドルの保護シートを取ります。

上からサドル先端を前方に向けて見てみます。サドルは曲がっていませんか？

⚠ カーボン製の締め付け部分にグリスやオイルを塗らないでください。

⚠ シートポストのMINやMAXのマークが見えている状態では、絶対にお子様をCanyon Kid's MTBに乗らせないでください。

i 梱包材に組み込まれたKidFitシステムが、お客様とお子様の適正なサドルの高さの調節をお手伝いします。補足情報は添付のクイックスタートガイドをご覧ください。

ハンドルの調整



ハンドルの調整は、前輪を取り付けて適正なエアを入れた状態で行ってください。ブレーキレバーが軽く下に向いているのがマウンテンバイクでは適正な走行状態です。お子様がサドルに座ってブレーキレバーに指をかけた時に、伸びた腕と指が一直線をなすようにします。

マウンテンバイクのハンドルは、両端にいくらか角度がついているものが大多数です。その場合にはお子様の手首は自然に楽な状態となって、外側に無理にひねった状態になることはありません。

i ハンドル調整についての詳細は、「お子様の身体に合わせたCanyon Kid's MTBのフィッティング」の項をご覧ください。

サスペンションフォークに空気を入れる

Canyon Kid's MTBにはサスペンションフォークが装備されているモデルもあります。

運送のためにサスペンションフォークは完全に空気を抜いてあります。Canyon Kid's MTBのサスペンションフォークが適正な空気圧となるように空気を充填する必要があります。

サスペンションフォークに関する詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「サスペンションフォーク」の項をご覧ください。付属のコンポーネントメーカーの説明書もお読みください。

公道を走るための装備



Canyon Kid's MTBに公道を走るための装備を行なう際は、走行する国の道路交通規則を遵守してください。これに関する注意事項は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「法律で定められた要件」の項をご覧ください。



サスペンションフォークのキャップを外します。

バルブにホースの口金をねじ込みます。



BikeGuardに同梱の専用のポンプでサスペンションフォークに空気を入れます。フォークメーカーのばね定数調整に関する推奨値に従ってください。自信がなかったり、疑問がある場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496までお問い合わせください。

⚠ サスペンションフォークが正しく調整されていないと、サスペンションフォークが十分に機能しなかったり、破損したりする恐れがあります。

i ポンプで空気を入れる前および初めて乗車する前にCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「サスペンションフォーク」の項とフォークメーカーの取扱説明書をよく読んでください。



⚠ Canyon Kid's MTBは、道路交通法や同等の法規定で、自転車にリフレクタおよびライトの装備を義務付けている場合の要件を通常は満たしていません。Canyon Kid's MTBで走行する国で、準拠装備なしに公道を走ることが許されているかどうか確認してください。

点検と調整



ホイールを取り付けてスルーアクスルまたはクイックリリースを閉じたら、お子様にブレーキレバーを何度か繰り返し引かせてください。そうしてから、ホイールを回転させます。



ホイールの取り付けが終わったら、お子様と一緒に停車状態でブレーキのテストを行ってください。ブレーキレバーには遊びが必要で、最大限に引いてもハンドルの手前で止まる必要があります。詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「ブレーキ」の項をご覧ください。



回転するローターがキャリパーに擦れてはいけません。またブレーキパッドに強く擦れるのも通常の状態としては許されません。両輪を回転させて、振れがなく真円であることを確認します。



ディスクブレーキのブレーキパッドが新品の場合には慣らしが必要です。



お子様と一緒に変速機の機能を確認します。ディレイラーを備えたCanyon Kid's MTBの場合には、ギアを全段切り替えてみて、リアの一番大きな歯車にチェーンが掛かっている状態で、ディレイラーがスポークに接触したり、チェーンが内側に落ちたりする可能性がないことを確認してください。

変速機の調節に関する詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「変速機」の項をご覧ください。



「お子様の身体に合わせたCanyon Kid's MTBのフィッティング」の項にある解説に従って、お子様と一緒にサドルとグリップの位置を調整し、ハンドルやグリップ、シートポストがしっかり固定されているかどうか確認してください。



シートポストは最低でも先端がトップチューブの下まで入るか、シートポストのMINやMAXのマークが中に入るまで、フレームに差し込む必要があります。



シートポストのMINやMAXのマークが見えている状態では、絶対にお子様をCANYON Kid's MTBに乗らせないでください。



タイヤの側面に表示されている空気圧を上限として両輪のタイヤに空気を入れます。タイヤとチューブに関する詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「ホイール・タイヤ・チューブ・空気圧」の項をご覧ください。

組み立てが終わったら、「初めて乗車する前に」および「乗車前に必ず確認」の項に記載されている点検作業を確実に行ってください。



取り付けおよび点検作業が終わったら、お子様と一緒に人のいない広場や道で試乗を行なってください。組み立てや調整に問題がある場合、そのままオフロードを走行すると、走行中に不具合が生じて自転車の操縦ができなくなる恐れがあります。



100～300 km走行した時点で、再度すべてのボルトがしっかりと固定されているかどうか、締め付けトルク値に従って点検してください。詳細は「手入れと点検についての一般的注意事項」、「推奨締め付けトルク」、「点検・整備頻度」などの項をご覧ください。

CANYON KID'S MTBの梱包

Canyon Kid's MTBを弊社のマイスター整備工場に点検のため送ったり、旅行に持って行くために梱包する必要がある場合には、いくつかの注意事項を守ること、大切なCanyon Kid's MTBが無事に目的地に届きます。

梱包時には「BikeGuardから取り出して組み立てる」の項にある指示を参考にしてください。Canyon Kid's MTBが最初に届いた時と同じ状態で再び発送するのが最善の方法です。

Canyon Kid's MTBを梱包する手順をひとつずつ説明した梱包方法の説明書は弊社ホームページ www.canyon.com にも掲載されています。

飛行機で移動する時には、CanyonのBikeGuardを使って梱包するか、CanyonのBikeShuttleなどの適切な自転車用ハードケースを使用してください。

自動車で運ぶ時には、バイクを確かかつ滑る心配がないように固定してください。自信がなかったり、疑問がある場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 までお問い合わせください。



⚡ 自転車やその一部を固定しないまま車内において運ぶのはやめてください。走行中に滑って車内を移動することがあり危険です。

⚠ 発送時にCanyon Kid's MTBが同梱の説明書通りに梱包されていなかった場合には、運送中の損傷に対する補償をCanyon Bicycle GmbHから受けることができなくなります。

⚠ ほとんどの自転車キャリアは、断面積の大きなフレームチューブをクランプが押しつぶしてしまう恐れがあります。カーボンフレームはそのまま使い続けると突然折れる危険があり、アルミ製フレームはすぐにへこんでしまいます。専用のキャリアが自動車用品店にあります。

⚡ 自動車で運送する時には、外れる可能性のあるもの（工具・バッグ等）が自転車についていないことを確認してください。**事故の危険があります。**

クイックリリースとスルーアクスルの取り扱い

操作方法が簡単なクイックリリースですが、取り扱いを誤ったことによる事故は後を絶ちません。

クイックリリースには、主に2つの操作箇所があります。

- ハブの片側にあるリリースレバー：レバーを閉じる動きをカムによって締め付け力に変換する機能があります。
- ハブのもう一方の側にあるクランプナット：スキャアーの固定力をこのナットで調整します。

ホイールを確実に固定するには

- クイックリリースを開きます。この状態ではOPENの文字が見えているはずです。
- レバーを締め付け位置の方向に回します。レバーの外側にCLOSEの文字が見えるようになります。レバーを閉める時に、最初の半分ぐらいまでは力を入れなくてもレバーが動く状態（まだ締め付けていない状態）でなくてはいけません。
- 残りの半分は、レバーの力がどんどん強くなってゆくはずです。最後にはレバーを動かすのが難しい状態になります。フォークやフレームなどを指でつかみながら、親指の付け根の母指球でレバーを押してください。ただし、ブレーキディスクをつかんではいけません。
- レバーの最終位置は、車輪に平行になっている必要があります。つまり、レバーが横方向に突き出した状態ではいけません。レバーは、フレームに沿った、不意に開いてしまうことのないような位置に置くようにしてください。
- しっかり固定されているかどうかを確認するため、閉じた状態のレバーを左右に廻してみます。

⚡ ホイールが正しく取り付けられていないと、重大な転倒や事故につながる恐れがあります。



⚡ ホイールがしっかりと固定されていることをお客様の乗車前に必ず確認しましょう。万が一走行中に車輪が外れたら、**転倒の危険**があります。

⚠ 自転車をどこかに停めておく場合には、クイックリリースで固定されたホイールも、フレームと一緒に固定物に繋いだ状態で鍵をかけましょう。

- ▶ リリースレバーが回転してしまう場合には、ホイールが確実に固定されていません。レバーを一旦開いて、固定力を強くする必要があります。固定力を強くするには、反対側のナットを、時計回りに半回転回します。
- ▶ 再び同じ手順でクイックリリースを閉じ、しっかりと固定されたかどうかもう一度確認します。リリースレバーを廻すことができなくなっていれば、しっかりと固定されています。
- ▶ 次にホイールを地面から数センチ程度持ち上げて、タイヤを上から軽く叩いてみましょう。車輪がしっかりと固定されていれば、フレームのドロップアウトから外れることはありません。

サドルのクイックリリースが確実に固定されているかを確認するには、フレームを押さえてサドルをひねることができるか試してみます。



i クイックリリースを車輪盗難防止用のロッキングスキュアーに付け替えることもできます。ロッキングスキュアーを開くには、特殊な専用のレバーか六角棒レンチが必要となります。自信がなかったり、疑問がある場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 までお問い合わせください。

4 クイックリリースのリリースレバーは前輪後輪とも常にCanyon Kid's MTBの左側(チェーンの反対側)にあることを覚えておきましょう。そうすれば、前輪を裏返しに取り付けてしまうことはありません。

4 シートポストが正しく取り付けられていないと、重大な転倒や事故につながる恐れがあります。

4 シートポストがしっかりと固定されていることをお子様の乗車前に必ず確認しましょう。万が一走行中にシートポストが外れたら、**転倒の危険**があります。

スルーアクスル式ホイールの取り付けに関する注意事項

スルーアクスルが採用されるのは、バイクに対する負荷が大きいモデルです。スルーアクスルを使用することによってサスペンションフォークやリアサスの剛性が向上します。

アクスルの固定を六角棒レンチで解除し、抜き取ります。こうすれば、後輪を通常通り取り外すことができるようになります。

取り付けの時には、後輪を取り付ける前にスルーアクスルをハブに差し込んでしまわないようにご注意ください。

取り付けの手順は通常通りです。ただし、ガイドがついていますので後輪の位置を調整する必要はありません。後輪は自動的に正しい位置に納まるようになっています。後輪を取り付けたら、アクスルを差し込んでください。アクスルを反対側のねじ山にねじ込みます。締め付けは指定のトルクで行います。

自信がなかったり、疑問がある場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 までお問い合わせください。

車軸ナット式リアホイールの取り付けに関する注意事項

ハブギアを備えた自転車の場合には、取り外しの前に部品が適正に取り付けられていることを確認してください。ロックナットを締める前に、ホイールを後ろに引っ張ってチェーンを張ります。

スプロケットとフロントのチェーンリングの間でチェーンが二センチ以上上下に引っ張れる状態ではいけません。チェーンが大きく垂るんだ状態では絶対にいけません。

すべて問題なく、ホイールが中央にある状態になったら、車軸ナットを締めます。トルクアームが正しく嵌まっているかどうか確認してください。



! アクスルを固定する時は、メーカーが推奨している工具以外は絶対に使用しないでください。作業には必ずトルクレンチを使ってください。締め付けトルクを少しずつ(0.5Nmずつ)規定の最大締め付けトルクまで上げてゆくようにして、こまめにコンポーネントが確実に固定されているかどうかを確認してください。メーカー指定の最大締め付けトルクを超過しないようにしてください。アクスルを強く締めすぎると、アクスルやフォークのブレードが破損することがあります。

i 必要に応じてハブメーカーのウェブサイトに掲載されている取扱説明書もご覧ください。

アクセサリの取付や改造を行う際の注意事項

Canyonの自転車は、それぞれの用途に合わせた仕様のスポーツ用製品です。マッドガードなどを取り付けることによって機能に支障をきたし、その結果として走行時の操作性が劣化することがあります。アクセサリの購入および取り付けの前に、そのアクセサリがお客様のCanyon Kid's MTBに取り付け可能な互換性があるかどうかの確認が必要です。

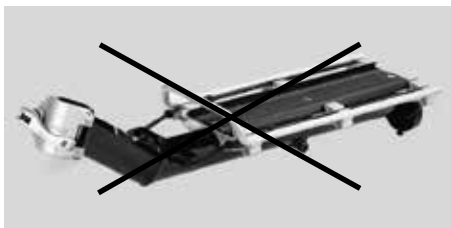
ベルやホーン、ライトなどを取り付ける時には、その製品が認可された検査済みのものであり、道路交通法により使用が許されているものであるかどうかを、よく確かめてください。電池・充電式バッテリーを使用するライトには、波線マークとアルファベットのKが表示されている必要があります。(弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「法律で定められた要件」の項参照のこと

自分が完璧にこなすことのできる作業だけをするようにしましょう。

ハンドルやハンドルステム、フォークなどの交換は、必ず専門の技術者に依頼することをお奨めします。どのような場合にも、必ずアクセサリメーカーの取扱説明書に従ってください。新たなコンポーネントやアクセサリを取り付ける時には、その適切な取り付けを行う責任は常にお客様自身にあります。少しでも疑問がある場合には、Canyon Kid's MTBを弊社のマイスター整備工場にお送りください。



荷台やトレーラーを取り付けることはできません。お子様が荷物を運びたい場合には、専用のサイクリング用リュックサックを使用するのが唯一の方法です。



マッドガードなどを後から取り付けることにより、Canyon Kid's MTBの機能を損なうことがありますので、なるべく弊社のラインナップにご用意しておりますアクセサリをご利用ください。そうすれば、確実に適合品を使用することができます。



取り付けに問題があると、コンポーネントが外れたり、折れたりして、重大な転倒事故の原因になる恐れがあります。安全に関わる固定ボルトは、規定のトルクで締め付けてください。



アクセサリの取り付けやコンポーネントの互換性、改造などについて疑問がある場合には、本説明書後述のさらに詳しい解説を読むか、弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版をご覧ください。または弊社ホットライン 050-3786-8496 までご連絡ください。

カーボン素材の注意事項

カーボンという素材は、正しくは炭素繊維強化プラスチック、略称CFRPとも呼ばれ、他の軽量素材とは異なる特殊な点があります。その特性を知ることは極めて重要です。そうすれば、お買い上げになった大切なCanyon Kid's MTBを末永くお楽しみいただけると同時に、いつも安心してその機材を信頼することができます。

炭素繊維強化プラスチックが自転車競技に適していることは、無数の勝利によって実証されています。この素材は、素材に適した設計・加工・取扱により、極めて強度が高く、高負荷に耐えるコンポーネントの大幅な軽量化を可能にします。

カーボンの物性で非常に特殊なのは、素材の脆性です。このような弱点があるために、カーボンは負荷がかかっても塑性変形はしませんが、内部構造はすでに傷んでいる可能性があるのです。極端な場合には繊維が分離してしまい、いわゆる剥離現象が発生して、コンポーネントの強度が著しく低下することがあります。過度の負荷がかかって内部の繊維がすでに損傷していても、スチールやアルミのように曲がったりすることがないので、見ただけではわからないのです。そのためカーボン製のパーツは、過度の負荷がかかった後もそのまま使用し続けると折れることがあり、転倒や不測の事態に至る恐れがあります。過度の負荷がかかるような出来事があつたら、そのパーツ、できればCanyon Kid's MTBのバイク全体を弊社のマイスター整備工場で検査させることを是非お奨めします。

Canyonを停めておく時は、必ず丁寧に倒れないように立てかけるようにお子様に話してください。カーボンフレームやカーボン製コンポーネントは、自転車倒れただけでも破損することがあります。



走行中自転車の様子を気をつけるようにお子様にも話しておきましょう。カーボンコンポーネントから異音がしたら、機材の不具合が発生する予兆かも知れません。すぐに自転車の使用をやめさせて弊社の整備工場ホットラインに連絡し、その後の対応を相談してください。お子様の安全のためにも、カーボン製パーツの修理は絶対に禁物です。破損したものは直ちに交換し、取り外したものをまた使用することが絶対にないように取りはからってください。



カーボン製コンポーネントは、絶対に高温にさらしてはいけません。パウダーコーティングや焼付塗装などは禁物です。その際に必要な高熱によってコンポーネントが破壊される恐れがあります。また、炎天下の車内に保管したり、熱源の近くに置いておかないでください。



ほとんどの自転車キャリアは、断面積の大きなフレームチューブをクランプが押しつぶしてしまふ恐れがあります。そのようなカーボンフレームを使用し続けると、何の前触れもなく急に破損することがあります。カーボンフレームも運べる特殊なタイプのキャリアがあります。



ライダー・携行品(リュックサック)・自転車の最大総重量は40 kgまで、タイヤ24インチの弊社モデルでは80 kgまでです。トレーラーや荷台の使用は一切認められていません。

手入れについて

カーボンを使った自転車の手入れをお子様と一緒に、お子様がカーボン素材の取り扱いを覚えられるようにしましょう。

炭素繊維強化プラスチック製コンポーネントの清掃には、柔らかい布ときれいな水を使い、必要に応じて少量の洗剤を水に加えます。落ちにくい油やグリスなどの汚れは、石油系クリーナーを使用するときれいになります。アセトンやトリクロロエチレン、塩化メチル等を含む脱脂剤や、溶剤ないし溶剤を含む非中性洗剤や化学洗剤などは表面が腐食しますので絶対に使用しないでください。

表面を保護し光沢を出すには、カーワックスを使用することもできます。研磨液や塗装面クリーナーには固体成分が含まれており、表面に傷をつける恐れがあります。

 ダウンチューブの下側など、カーボンフレームの傷つきやすい場所には専用の保護シールを貼って、ケーブルが擦れたり、石がぶつかることによる損傷から保護してください。

 カーボン製コンポーネントにオイルやグリスを塗ることは禁物です。グリスが表面に侵入して蓄積され、摩擦係数が下がることにより、許容締め付けトルクの範囲内で確実に固定することができなくなります。カーボン製コンポーネントに一度グリスがついただけでも、確実な締め付けがまったくできなくなる場合があります。

 自転車の清掃時など、定期的にカーボン製コンポーネントに切欠きや亀裂、へこみ、変色などの外的損傷がないかどうか点検してください。布がどこかに引っ掛かるようなことがあれば、その箇所を检查する必要があります。お子様にCanyonの使用を止めさせてください。直ちに弊社のホットライン 050-3786-8496 までご一報ください。



 カーボン製ハンドルとバーエンドバーを絶対に併用しないでください。専用のバーエンドバーだけは例外です。カーボン製ハンドルをカットしないでください。またブレーキレバーやシフトレバーをハンドルの表示位置より内側や必要以上に内側に固定しないでください。**折れる危険があります。**

 カーボン製のフレームやシートポストを作業スタンドのクランプに挟まないでください。破損する場合があります。堅牢な(アルミ製の)シートポストを取り付けてクランプに挟むか、フレームを内側から3点で固定する作業台や、フォークとボトムブラケットシェルで固定する作業台などを使用してください。

 超軽量構造のパーツはすべてそうですが、カーボン製コンポーネントも、その耐久期間には限りがあります。そのため、ハンドルやシートポスト、カーボン製ホイール、ステムなどは、使用頻度と負荷に応じて、たとえば3年毎や15,000 km毎など、定期的に交換してください。無事故の場合でも同様です。

転倒してしまったら

転倒してしまったら、必ずお子様と一緒に以下の項目を点検してください：

1. ホイールがまだしっかりと車輪の受け(フォークエンド/ドロップアウト)に固定されていることと、リムがフレームないしフォークの中央に位置していることを確認してください。両輪を回転させます。そうすれば、振れがなく真円であるかどうかわかります。ホイールに目に見えるような振れがある場合には、ホイールの振れ取りをする必要があります。詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「ブレーキ」および「ホイール」の項をご覧ください。
2. ハンドルとステムが曲がっていたり、欠けていたりしないか、また傾いていないか確認します。ステムがフォークにしっかり固定されていることを確認するために、前輪を押さえてハンドルをひねってみます。また、ブレーキレバーに体重をかけてみることで、ステムにハンドルがしっかり固定されていることを確認します。詳細は「お子様の身体に合わせたCanyon Kid's MTBのフィッティング」の項と「弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「ステアリングヘッド」の項をご覧ください。または弊社ホットライン 050-3786-8496 までご連絡ください。
3. チェーンがまだチェーンリングとスプロケットにかかっているかどうかを確認します。自転車が変速機側に倒れた場合には、変速機が問題なく機能するか確認することをお奨めします。誰かにサドルを持って自転車を持ち上げおいてもらい、ゆっくりと全段シフトしてみます。特にギアの軽い方に向かってチェーンが大きなスプロケットに移動してゆく時に、リアディレイラーがどこまでスポークに近づくかに注意してください。リアディレイラーやドロップアウトが歪んでいると、ディレイラーがスポークにぶつかり、転倒の危険があります。リアディレイラーや後輪、フレームなどが破損する恐れがあります。



 「カーボン素材の注意事項」の項にある注意事項も確認してください。

4. サドルの向きを、トップチューブに合わせるか、ボトムブラケットシェルに向かって見て、サドルがねじれていないことを確認します。
5. 自転車を数センチ程度持ち上げてから、手を離して地表に落とします。その時に何か音がしたら、緩んでいるボルトがないかどうか確認しましょう。
6. そして最後にもう一度自転車全体をよく眺めてみると、歪みや変色、亀裂などに気がつくことがあります。

すべての確認を行って問題がなかった場合にのみ、くれぐれも慎重にお子様と一緒に自転車に乗って帰宅してください。急に加速したり、ブレーキをかけたりすることは避けて、お子様が立ちこぎをしないようにご注意ください。

自転車の走行能力に疑問がある場合には、念のため、自動車で迎えに来てもらってください。自宅に戻ったら、改めて自転車を詳細に点検する必要があります。パーツが破損している場合には、修理ないし交換が必要です。本説明書後述のさらに詳しい解説を読むか、弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版をご覧ください。ただし、このCanyonはKid's MTBであって、他のCanyon MTBモデルとは意図された用途が異なる設計となっていることをお忘れなく。または、確信が持てない場合、弊社のホットライン 050-3786-8496 にお電話ください。



⚠ 衝撃的な力がかかったカーボン製のコンポーネントや、曲がったアルミ製のパーツは、突然折れることがあります。変形を直す(まっすぐに戻す)こともできません。まっすぐに直しても、破断する危険性が大きいことには変わりありません。特に危険なのはフォークやハンドル、ステム、クランク、シートポスト、ペダルなどです。お子様の安全が第一ですので、確信が持てない場合には、該当するパーツを交換することをお奨めします。

お子様の身体に合わせたCANYON KID'S MTBのフィッティング

フレームサイズを選択や確認を行う時には、お子様のスタンドオーバーハイトに十分な余裕があることを確認して、お子様がトップチューブにぶつかって痛い思いをする心配がないようにしましょう。

お子様の体型に合わせて自転車を調整することは大人の場合よりもさらに重要です。サドルの高さは、お子様が座った状態で両足が地面につく一方で、ペダリングにも支障が出ない高さという妥協点を見いだす必要があります。(停車時に) 確実に立てることが最優先です。



⚠ 次に解説する作業はどれも、ある程度の経験と適切な工具、手先の器用さが必要とされます。組み立てが終わったら必ずお子様と一緒に簡易テスト(「乗車前に必ず確認」の項参照)を行って、お子様に人のいない広場や道で試乗させてみてください。そうすれば、落ち着いてすべてを再確認することができます。不安な方は、位置の確認だけしておくのが賢明です。必要ならCanyon Kid's MTBを専門の知識がある人にみてもらってください。

i 梱包材に組み込まれたKidFitシステムが、お客様とお子様の適正なサドルの高さの調節をお手伝いします。詳しくは添付のクイックスタートガイドをご覧ください。

適正なサドルの高さ

必要なサドルの高さは、ペダルをこぐ動作によって決まります。

重要:ペダルをこぐ時には、足の親指の付け根の拇指球をペダルの軸上に乗せるのが、よいこぎ方です。その状態で、クランクが一番下の位置にあっても、お子様の脚が伸びきった状態になってはいけません。サドルが高すぎると、この一番低い位置を通過するのが難しくなり、ペダリングの動きが丸くスムーズにならなくなってしまいます。サドルが低すぎると、膝の痛みの原因になります。ですから、次のような簡単な方法を用いて、サドルの高さを検査しましょう。お子様が靴底の平らなシューズを履いているようにご注意ください。

▶お子様をサドルに座らせて、一番低い位置にしたペダルにかかとを乗せます。この状態では足が伸びきっている必要があります。腰が斜めに傾かないように注意してください。

サドルの高さを調節するには、シートクランプのボルトまたはクイックリリースを緩める必要があります。(その前に「クイックリリースとスルーアクスルの取り扱い」の項を読んでおいてください。)シートクランプのボルトを適切な工具で反時計回りに廻して緩めます。

ついているMaxマークよりも先までシートポストを引き出さないでください。シートチューブが長く、トップチューブよりも上まで突き出ているタイプのフレームでは、シートポストの先端が最低でもトップチューブの下まで入るように差し込む必要があります。従って、最低でも差し込みが10センチ以上必要となる可能性があります。



シートポストとフレームで、所定の最低差し込み長が異なる場合があります。その場合は長い方の差し込み長に従ってください。



お子様のサドルの高さは2〜3ヶ月ごとに検査してください。



カーボン製フレームのシートチューブには、グリスを絶対に塗らないでください。カーボン製シートポストの使用時には、金属製のフレームもグリスは厳禁です。カーボン製パーツは一度グリスがついただけで、確実な締め付けができなくなる場合があります。

緩めたシートポストの高さを調整します。シートチューブの中に入る部分には常にしっかりとグリスを塗っておくようにしてください。(カーボン製のフレームおよびシートポストを除く)シートポストがシートチューブの中で簡単に滑らない場合でも、けっして無理な力をかけないでください。困ったら弊社のホットライン 050-3786-8496 をご利用ください。

▶サドル先端の向きを、ボトムブラケットに向かって見るか、トップチューブに合わせて、サドルが真っ直ぐ前を向くようにします。

▶シートポストのクランプを締めます。シートポストクランプのクイックリリースを閉じるか、ボルトを締めます。それほど手に強い力を入れなくても、十分な固定作用が得られるはずです。得られない場合には、シートポストがフレームとうまく合っていない可能性があります。確信が持てない場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 にお問い合わせください。

▶シートポストがしっかりと固定されているか確かめましょう。サドルの前後を両手でしっかりと押さえてひねってみます。サドルが回転しなければ、シートポストは固定されています。

▶これでお子様の脚の伸び方がよくなったかどうか、再度確認しましょう。お子様の足をペダルの最適な踏み位置にもってゆきます。拇指球がペダルの中央にある時には、膝は軽く曲がった状態になってなければなりません。そうならないと、サドルの高さは適切です。

▶また、その状態で確実にお子様の足が地面に届くかも確認しておきましょう。届かない場合は、サドルをもう少し下げる必要があります。



シートクランプのボルトを強く締めすぎないようにご注意ください。ボルトを締めすぎるとシートポストやフレームが破損する恐れがあります。**事故の危険があります。**



締め付けトルクを少しずつ(0.5Nm ずつ)規定の最大締め付けトルクまで上げてゆくようにして、こまめにコンポーネントが確実に固定されているかどうかを確認してください。メーカー指定の最大締め付けトルクを超過しないようにしてください。



最低ラインが見える所までシートポストが引き出された状態では、絶対にお子様を自転車に乗らせないでください。シートポストが折れたり、フレームが損傷する恐れがあります。シートチューブがトップチューブよりも上に延びているフレームでは、シートポストを最低でもトップチューブないしシートステイの下まで差し込むことをお奨めします。

サドル・ハンドル間距離とサドルの調整

ハンドルとサドルの距離は、サドルクランプをずらすことで、わずかながら変更が可能です。ただし、シートポスト上でサドルレールを横にずらすと、ペダルの踏み方も変わってきます。サドルが前後に移動することで、お子様がどの程度後方からペダルを踏むかが変わってきます。

サドルが水平になっていないと、お子様がリラックスして走行することができません。常にハンドルで身体を支えていないと、サドルから滑り落ちてしまうからです。



⚠ サドルを絶対にサドルレールの湾曲している部分では固定しないでください。必ず真っすぐな部分で固定します。

⚠ シートポストのボルト類は、規定のトルクで締め付ける必要がありますのでご注意ください。トルクレンチを使用し、最大締め付けトルクを超過しないようにしてください。最大締め付けトルクは、「推奨締め付けトルク」の項およびコンポーネント自体、もしくはコンポーネントメーカーの取扱説明書に記載されています。

i サドルで調整が可能な範囲は、ごくわずかしきありません。ステムの長さを変える方法であれば、最大で十センチを超える距離の変更が可能です。ただしその場合には、各種ケーブルの長さもそれに応じて変更する必要があります。このような改造を行う際には、必ず専門の自転車整備工場に依頼してください。ご質問やご予約は弊社のホットライン 050-3786-8496 までどうぞ。

サドルの位置と角度の修正

両方のボルトを2〜3回転だけ緩めます。それ以上緩めると、クランプ全体がばらばらになってしまうことがあります。サドルを水平方向に動かしてサドル・ハンドル間距離を調整します。サドルを軽く叩くと動くことがよくあります。サドルのレールについているマークに従って、その範囲を守ってください。

お好みの位置が決まったら、上下のクランプがサドルレールにはまっているのを確認してから、表示されている締め付けトルクまでボルトを締めます。

両方のボルトを均一に廻すことで、サドルの角度が変わらないようにしてください。サドルの先端を下げたい場合には、前のボルトを時計回りに廻します。場合によっては後ろのボルトを少し緩める必要があることもあります。後ろ側を下げたい場合には、後ろのボルトを時計回りに廻し、必要に応じて前のボルトを緩めます。

ボルトを締めたら、サドルの前後両端をつかんで交互に力をかけてみることで、サドルが傾かないか確認してください。



⚠ 月に一度は、ボルトの固定状態が「推奨締め付けトルク」の項や付属の取扱説明書、コンポーネント自体などに記載されている規定の締め付けトルクになっているか、Canyonトルクレンチで確認してください。

⚠ 完全に締まっていなかったり、緩み始めているボルトは、負荷に耐えられないことがあります。**事故の原因となる可能性があります。**

⚠ サドルのクランプを固定しているボルトは、この自転車に使用されているもののなかで最も敏感なタイプです。推奨締め付けトルクの範囲から外れることが決まらずに、くれぐれも注意して下さい。最大締め付けトルクは、「推奨締め付けトルク」の項およびコンポーネント自体、もしくはコンポーネントメーカーの取扱説明書に記載されています。トルクレンチを使用してください。

シフトレバーとブレーキレバーの調整

Canyon Kid's MTBのハンドルは、両端にいくらか角度がついているものが大多数です。ハンドルの位置を調整して、お子様の手首に無理のない、あまり外側にひねった状態にならないようにしましょう。

- ▶ シフトレバーないしブレーキレバーの六角穴ボルトを緩めます。
- ▶ ブレーキレバーないしシフトレバーをハンドル上で回転させます。お子様をサドルに座らせて、指をブレーキレバーにかけてみてください。腕と手が一直線になっているかどうかチェックしましょう。
- ▶ ブレーキレバーないしシフトレバーを再び所定の締め付けトルクで締め付けます。
- ▶ ブレーキレバーがしっかり固定されていることを確認するために、Canyon Kid's MTBの前に立って、両側のブレーキレバーを持ってハンドルを握みます。力を込めて下に押してもブレーキレバーが下に回転してしまっていないでください。回ってしまう場合は、固定用のボルトを慎重に締め直してください。



⚠ ステムやハンドル、ブレーキなどのボルトは、規定のトルクで締め付ける必要がありますのでご注意ください。該当する値はそれぞれの部品に表示されているか、「手入れと点検についての一般的な注意事項」の項または付属のコンポーネントメーカーの説明書に記載されています。締め付けトルクが適正でないと、コンポーネントが外れたり、折れたりする可能性があります。重大な事故につながる恐れがあります。

ブレーキレバーの握り幅調整

ブレーキレバーの多くは、レバーとハンドルの距離を調整できるようになっています。手が小さい子供のために、ブレーキレバーを握みやすいようにハンドルに近づけることができます。ブレーキが効き始めるレバーの位置も、指の長さに合わせて調整する必要があります。

- ▶ ブレーキパッドが制動面に接触する位置をお子様と一緒に確認してください。レバーを引き始めてすぐにその位置に達してしまう場合には、ブレーキをずらす必要があります。握り幅を調整したい場合には、後述または弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版の「ブレーキ」の項をご覧ください。または弊社ホットライン 050-3786-8496 までご連絡ください。修正しないまま握り幅を調整すると、ブレーキが擦れる可能性があります。しかしそうではなく、レバーをストロークの半分以上引いた時点でようやくブレーキが効き始めるようであれば、レバーの握り幅を狭くする余裕があります。
- ▶ 通常は、ブレーキのケーブルやホースがレバーに挿入されている部分の近くに、小さなボルトがついています。ボルトを締めてみてレバーが動くかどうか確認してください。
- ▶ 油圧式ブレーキの場合には、通常レバーにアジャスターボルトがついています。このボルトで位置を変更できます。
- ▶ お好みの握り幅になったら、パッドが制動面に触れるまでのレバーの遊びが十分にあるかどうか確認してください。



⚠ ブルホーンハンドルで走行時は、停止するまでの距離が長くなりますのでご注意ください。ハンドルを持つ位置によって、ブレーキレバーとの距離が遠くなります。

⚠ ステムやハンドル、ブレーキなどのボルトは、規定のトルクで締め付ける必要がありますのでご注意ください。該当する値は「手入れと点検についての一般的な注意事項」の項または付属のコンポーネントメーカーの説明書に記載されています。締め付けトルクが適正でないと、コンポーネントが外れたり、折れたりする可能性があります。重大な事故につながる恐れがあります。

⚠ ブレーキレバーがハンドルバーにつくまで引けちゃうような状態は許されません。それよりも前の時点で制動力が最大に達する必要があります。

i ブレーキメーカーの説明書もご確認ください。

ブレーキ

一般的なブレーキの用途は、Canyon Kid's MTBで走行中に周囲の状況や路面の状態に合わせて速度を調整することです。しかし、ブレーキを強く握ってCanyon Kid's MTBを急停止させる必要が生じることもあります。

車の通行が禁止された道でお子様とブレーキをかける練習をしましょう。お子様が前輪と後輪のブレーキを同時に使えるようになるようご注意ください。前輪のブレーキは、重心が前に移動すると、はるかに制動力が強くなるからです。

路面が脆いと、条件が変わります。この場合に前輪のブレーキが強すぎると、前輪がスリップすることがあります。この場合にも体重を後方に移動する練習をお子様と行なって、さまざまな路面でのブレーキ動作を覚えさせましょう。

下り坂が続くとブレーキが過熱することがありますのでご注意ください。その結果制動力が低下（フェード現象）したり、まったくブレーキが効かなくなったりする恐れがあります。長い下り坂が続く場合には、一時的にブレーキを強くかけて、またすぐにブレーキを解除する練習をお子様と行なってください。過熱している心配がある場合には、一旦停車してブレーキディスクが冷めるのを待つのが得策です。

急ブレーキをかける際には、できる限り後方に体重を移動するようにしなければいけないことをお子様に教えてください。

詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「ブレーキ」の項をご覧ください。または弊社ホットライン 050-3786-8496 までご連絡ください。

左右のブレーキレバーの、前輪と後輪のブレーキ本体との対応（左のレバーで前輪のブレーキが作動など）が異なることがあります。ブレーキは、自転車に初めて乗車する前に、お子様が使いやすい配置に改造してもらいましょう。



⚠ お子様はブレーキに慣れるまではくれぐれも慎重に行動するようにご注意ください。非常時の急ブレーキの練習を車の通らない場所で繰り返してお子様は自転車を実際にコントロールできるようにしておきましょう。それが事故の防止につながります。

⚠ 路面がぬれていたり、滑りやすい場合には、慎重にブレーキをかける練習をお子様とする必要があります。タイヤがスリップしやすくなっているからです。このような条件では速度を落とすようにお子様を教育してください。

⚠ リムとブレーキシューに、ワックスやグリス、オイルなどの付着が一切ないことを確認してください。**事故の原因となる可能性があります。**

⚠ 部品交換時には、表示のある、お使いのブレーキに合った純正部品のみをご使用願います。

変速機

変速機がCanyon Kid's MTBについているのは、地形や出したい速度に合わせて、お子様の力を調整するためです。

ディレイラー式の場合、前は小さなチェーンリングで、後ろは大きなスプロケットにチェーンがかかっている状態の低ギア比にすれば、お子様は急坂でもそれほど力を入れずに上れます。しかしその分、ペダルを踏む速度ないし頻度が高くなります。下りは、高いギア（後ろのスプロケット小）に切り替えます。お子様のクランク1回転あたりの移動距離が長くなり、速度もそれに応じて速くなります。

ギアチェンジ中はペダルから力を抜く練習をお子様と一緒にしましょう。そうすることでギアの切り替え動作が正確に行われ、異音が発生することを防ぎ、摩耗を減らすことができます。

ハブギアの場合は「1」が最も軽い第1速を表します。ギアチェンジはできる限りペダルを一時静止させるか、少なくともペダルから大きく力を抜いて順番に行ないます。最も大きな数字が最上段のギアを意味します。

同梱されている変速機メーカーの取扱説明書もご確認ください。変速機についてお困りの点がありましたら、弊社のホットライン 050-3786-8496 までお問い合わせください。

⚠ お子様は必ず先が細くなったズボンをはいているか、ズボンクリップなどを使用するようにご注意ください。幅の広いズボンはチェーンやギアに巻き込まれて、転倒の原因となる恐れがあります。

⚠ ギアハブやディレイラーの調整は、熟練した整備工でないと難しい作業です。



⚠ ギアの切り替えを車の通らないところでお子様と練習しましょう。そうしてお子様は各種のレバーやグリップシフターなどの使い方に慣れておくようにしましょう。一般道でギアチェンジの練習をすると、お子様がそれに気を取られて道路交通の危険を察知できない恐れがあります。

⚠ ギアチェンジをできるだけ静かでスムーズに行なう練習をお子様としましょう。部品を保護し、ギアが入らずに突然ペダルが空回りしてしまうことを防ぐことになります。

i 詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「変速機」の項をご覧ください。または弊社ホットライン 050-3786-8496 までご連絡ください。

サスペンションフォーク

自転車業界では、乗り心地と走行の安全性を重視する傾向がますます顕著になっています。Canyon Kid's MTBにサスペンションフォークが装備されているモデルがあるのもそのためです。オフロードや路面の状態が悪い場所でのCanyon Kid's MTBの操縦性が向上し、衝撃による自転車と子供の負担が大きく軽減されます。お買い上げのCanyon Kid's MTBには、空気を密閉した空気ばねを用いたテレスコピックフォークが取り付けられています。ダンパーにはオイルが使用されます。

詳細は弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「サスペンションフォーク」の項をご覧ください。または弊社ホットライン 050-3786-8496 までご連絡ください。

⚠ Canyon Kid's MTBはすべて、標準装備されているサスペンションフォークが、それと同等のサスペンションフォークの使用を前提に設計されています。ダブルクラウンフォークやフォーク長の異なるフォークを使用することは認められていません。使用した場合には保証を受ける権利を喪失します。Canyon Kid's MTBの大きな破損や破断の原因となる可能性があります。**事故の危険があります。**

ⓘ フォークにはほぼ例外なくメーカーのわかりやすい説明書がついています。その説明書をよく読んでから、フォークの調整や整備作業をするようにしましょう。

⚠ ダンパーをあまり強くすると、立て続けに障害物を越えた時にフォークがもとの長さに戻らないことがあります。**転倒の危険があります。**



ⓘ 調整および整備に関する情報は www.spinner-usa.com もご覧ください。

⚠ サスペンションフォークは、衝撃を吸収できるように、またそれを前提に設計されています。フォークが固定されていて動かないと、衝撃がそのままフレームに伝わってしまい、ほとんどの場合フレームはそのような負荷に耐えられるようには設計されていません。したがってロックアウト（サスペンションフォークを固定する機構）が搭載されたフォークで、お子様がロックアウト機能を使用できるのは、平滑な路面（平滑な未舗装道など）のみに限られます。オフロードでの使用は厳禁です。

⚠ サスペンションフォークの構造は複雑です。整備や修理はフォークメーカーの認定サービスセンターに依頼してください。サスペンションフォークのボルトを点検する時には、フォークメーカー指定の締め付けトルクに従って、必ず適切なトルクレンチを使用してください。

⚠ 前輪用のタイヤを新しく購入する場合は、フォークが最大限縮まった時にクラウンに擦れることのない高さのタイヤを選んでください。タイヤが高すぎると前輪がロックする恐れがあります。**転倒の危険があります。**

アクセサリ

ビンディングペダル

Canyon Kid's MTBには標準ペダルが取り付けられています。Canyon Kid's MTBにビンディングペダルを取り付ける場合には、メーカーの説明書をよく読んでその指示に従ってください。

ビンディングの強度は一番弱くしておきましょう。

バーエンドバー

バーエンドバーをつけると、ハンドルの持ち方のパターンが増えます。バーエンドバーは、お子様がダンシングと呼ばれる立ちこぎをしている時に楽に掴めるような位置に合わせるのが一般的です。そうするとバーエンドバーは地面とほぼ平行になるか、約25度上向きの角度になります。



⚠ バーエンドバーを垂直につけたり、後ろ向きにつけないでください。転倒した時に負傷の原因となることがあります。

⚠ Canyon Kid's MTBの標準グリップでバーエンドバーを使用することはできません。バーエンドバーをCanyon Kid's MTBに取り付ける前に、必ず弊社のホットライン 050-3786-8496 までご連絡願います。

⚠ お子様がMTBのハンドルでバーエンドバーを握って走行していると、他の握り位置よりもブレーキレバーまでの距離が遠くなります。したがって、停止するまでの距離も長くなります。常に危険の予測に努め、停止するまでの距離が長くなることを計算に入れて走る必要があることをお子様に説明してください。

⚠ お子様がブルホーンハンドルで走行時は、停止するまでの距離が長くなりますのでご注意ください。ハンドルを持つ位置によって、ブレーキレバーとの距離が遠くなります。

⚠ 慣れていなかったり、ビンディングペダルのクリート固定力が強すぎると、お子様がペダルからシューズを外せなくなることがあります。**転倒の危険があります。**

ⓘ 利用可能なアクセサリに関する詳細は弊社の公式ウェブサイト www.canyon.com をご覧ください。自信がなかったり、疑問がある場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 までお問い合わせください。

手入れと点検についての一般的注意事項

Canyon Kid's MTBの自転車は品質の高い製品です。しかし、他のタイプの車輦と同様、Canyon Kid's MTBもお子様と一緒にこまめに手入れし、定期整備を専門業者に依頼する必要があります。

また、軽量構造の自転車は、主要コンポーネントを定期的に交換する必要があります。（「点検・整備頻度」の項参照）そうしてはじめて、確実にすべてのパーツが常に安全に機能するようになります。そうすれば、お子様が自転車での走行を末永く安全に楽しむことができます。

CANYON KID'S MTBの洗車と手入れ

汗や汚れ、路面凍結防止用の塩や海風の塩分などがこびりつくとCanyon Kid's MTBが傷みます。ですから、こまめな清掃とCanyon Kid's MTBのあらゆるパーツを腐食から守る作業は、お子様と一緒にこなすいつもの習慣にしましょう。

Canyon Kid's MTBの清掃にスチームジェットクリーナーを使用しないでください。このような高速洗浄機には重大な欠点があります。高圧で噴出される水流が強すぎるため、水がパッキンを通して軸受の内部にまで入ってしまうことがあるのです。潤滑剤が水で希釈されてしまい、摩擦が増大して、腐食が始まります。その状態が続くと、軸受の回転面が破壊されてしまい、回転が甘くなります。スチームジェットによってシール類が剥がれてしまうことも少なくありません。



 自分で行うのは、十分な知識があり、必要な工具が揃っている作業のみにして無理をしないでください。

 近距離から高圧の水流やスチームジェットクリーナーを使ってCanyon Kid's MTBを洗わないでください。

 チェーンステイの上側など、ケーブルが擦れそうな箇所はシールなどで保護してください。そうすれば、醜い引っ掻き傷や塗料の剥がれを防ぐことができます。

水圧の低い水を吹きかけるか、バケツの水を使ったり、スポンジや大きなブラシなどで洗車するのが、自転車を傷めない方法です。手で自転車を洗うと、もうひとつ利点があります。塗装の傷んでいる箇所や、部品の劣化、不具合などをお子様と一緒に早期に発見できるのです。

Canyon Kid's MTBが乾いたら、塗装面や金属面（ブレーキディスクを除く）にはワックスを塗ります。スポークやハブ、ボルト、ナットなどにもワックスを薄く塗りましょう。あまり平らでないパーツは、ハndsプレーで吹き付けるのが簡単です。ワックスを塗った面は柔らかい布で磨いて光沢を出し、水をはじくようにしておきましょう。

チェーンと歯車を吸収性の木綿の布できれいに拭いてください。

自転車の掃除が終わったらチェーンを点検して、必要なら油を差しておくのがよいでしょう。（弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「変速機」の項参照）困ったら弊社のホットライン 050-3786-8496 までご連絡ください。



 ワックスやチェーンオイルがブレーキパッドやディスクにつかないようにしてください。ブレーキが効かなくなる恐れがあります（弊社ホームページ www.canyon.com のCanyonマウンテンバイク取扱説明書完全版「ブレーキ」の項参照のこと）。ハンドルやステム、シートポスト、シートチューブなどで、締め付け部分がカーボン製の場合には、グリスやオイルを塗らないでください。

 オイルやグリスのがんこな汚れを塗装面やカーボンから取り除くには、石油系のクリーナーを使ってください。アセトンや塩化メチル等を含有する脱脂剤や、溶剤を含む非中性洗剤や化学洗剤などは使用しないでください。表面の腐食につながる可能性があります。

 清掃時には、ひびやひっかき傷、素材の湾曲や変色などがなくよく見てください。確信が持てない場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 にご一報ください。傷んでいるコンポーネントが見つかったらすぐに交換してもらい、塗装の傷は補修してもらってください。

 ワックスをフレームに塗る前に、あまり目立たない場所に塗ってみて問題がないことを確認してください。

CANYONの置き場所と保管

シーズン中は、手入れさえこまめにしていれば、Canyon Kid's MTBをしばらく停めておく時にも、注意しなければいけないことは(盗難防止対策以外には)特にありません。Canyon Kid's MTBは、乾燥した通気の良い場所に置いておくことをお勧めします。

冬の間Canyon Kid's MTBを保管しておくには、いくつか注意が必要な点があります。

- ▶ 上記の解説に従ってCanyon Kid's MTBを清掃し、腐食から守ってください。
- ▶ サドルを取り外して、内部に侵入した水分を乾燥させます。スプレーで細かい霧状にしたオイルを少量シートチューブ内に吹き付けます。(カーボン製のフレームを除く)
- ▶ Canyon Kid's MTBは乾燥した場所に保管してください。
- ▶ リアを一番小さいスプロケットにしておきます。こうすればケーブルおよびばねの負荷が最小限に抑えられます。
- ▶ 保管期間が長くなると、チューブから次第に空気が抜けてゆきます。空気の抜けたタイヤの上にCanyon Kid's MTBが乗った状態が長期間続くと、自転車の構造によくありません。そのため、ホイールまたは自転車全体を吊り下げておくか、定期的にタイヤの空気圧を点検してください。



整備と点検

初回点検

弊社の熟練技術者たちは、独自に作成した整備項目リストに従って点検を実施します。乗り始めてしばらくの間は、ホイールの初期振れが発生したり、シフトケーブル・ブレーキケーブルの初期伸びが生じて、変速がうまくできなくなることがあります。また、走行距離によっては、摩耗のため修理が必要となるパーツがでてくることもあります。パーツの交換が必要な場合には、担当者がお客様に予めご連絡します。

年次定期整備

長く厳しいシーズンが終わったら、Canyon Kid's MTBを徹底的に点検してもらうことをお勧めします。点検は、お客様の自転車を知り尽くしている弊社の技術者に是非お任せください。

一年に一度の点検は、お客様の自転車のタイプに合わせて、整備頻度一覧表に従って専門の技術者が行います。

Canyon安全チェック

Canyon Kid's MTBの年間走行距離が1,000 kmを大きく下回る場合には、整備の手間もそれに依りて少なくなります。そのような方にぴったりののがCanyon安全チェックです。弊社のスペシャリストたちがそのために特別に作成した整備項目リストは、通常の年次定期整備よりも簡略化されていますが、安全に関わる項目はすべて網羅されています。このチェックを毎年シーズンが始まる前や、自転車旅行に出かける前に済ませておけば、お子様が心置きなく自転車ライドを満喫できること間違いありません。

Canyon Kid's MTBの待時間をできる限り短縮するために、事前のご予約をお願いしております。

 Canyon Kid's MTBを弊社のマイスター整備工場に送るために梱包する必要がある場合には、本説明書前述の解説通りに梱包してください。

 特に軽量のコンポーネントは寿命が短いことがあります。ですから、お客様の安全のためにも「点検・整備頻度」の項に記載されているコンポーネントの定期点検を行い、必要に応じて交換してもらってください。

 お子様はCanyonでのライドを末永く楽しむためには、Canyon Kid's MTBの定期的な整備が必要です。「点検・整備頻度」の項記載の表に記載されている整備間隔は、年間走行距離が750~1,500 km(年間走行時間約50~100時間)の場合を前提とした目安です。お子様の走行量が多かったり、悪路の走行が多いと、自転車にかかる負荷が大きくなりますので、点検間隔は短くなります。頻繁な雨天走行や全般として雨の多い気候での使用時も同様です。

 部品の交換が必要になった場合には、必ず純正品をご使用願います。当初二年間(ないし保証期間中)についてはCanyonがすべての必要不可欠な交換部品をご用意しております。ご用意できない場合には同等ないし上級の交換部品を提供します。

 弊社ホームページwww.canyon.comには、簡単な修理や整備の作業に関する情報も多数掲載されていますのでご利用ください。ただし、無理な作業はしないようにしてください。自信がなかったり、疑問がある場合には、弊社のホットライン 050-3786-8496 またはEメールで info@canyon.com までお問い合わせください。

点検・整備頻度

購入してからしばらく乗ったCanyon Kid's MTBは、一定の間隔で専門業者に整備してもらう必要があります。下の表に記載されている整備間隔は、年間走行距離が750～1,500 km (年間走

行時間約50～100時間) の場合を前提とした目安です。お子様の走行量がもっと多い場合には、自転車にかかる負荷が大きくなりますので、点検間隔は短くなります。

コンポーネント	点検項目	毎回乗車時月一回	年一回	その他の 間隔
ライト	点検	・		
タイヤ	空気圧の点検	・		
タイヤ	溝深さ・側壁の点検	・		
ブレーキ (ディスク)	パッド厚測定	・		
ブレーキケーブル/チューブ	目視検査	・	x	
サスペンションフォーク	ボルト点検	・	x	
サスペンションフォーク	オイル交換・サービス		x	
フォーク	点検 交換		x	x 転倒・事故の後
ギアハブ変速機	点検、必要に応じ調整		x	
ボトムブラケット	軸受の遊び点検		x	
ボトムブラケット	グリスアップ		x	
チェーン	点検および注油	・		
チェーン	点検および交換			x 750 km 以上
チェーンの張り ギアハブ	点検、必要に応じ張り調整	・	x	
クランク	点検および締め直し		x	

・の印がついた点検項目は、手先が器用で、ある程度の経験があり、トルクレンチなどの適切な工具をお持ちの方であれば、ご自分でお子様と一緒に実施できます。点検の結果不具合が見つかった場合には、すぐに適切な措置をとってください。ご質問やご相談は弊社のホットライン 050-3786-8496 がお答えします。
xの印がついた作業は、最近の自転車の技術に詳しい専門業者（自転車整備の資格を持ったスタッフががいる自転車店など）に依頼することをお奨めします。お問い合わせは、弊社のホットライン 050-3786-8496 にどうぞ。

コンポーネント	点検項目	毎回乗車時月一回	年一回	その他の 間隔
塗装	ワックス塗布			・ 少なくとも 半年に1回
ホイール/スポーク	真円度・張力点検	・		
ホイール/スポーク	振れ取り・張り直し			x 随時
ハンドルと ステム、カーボン およびアルミ	点検 交換			x 少なくとも2 年に1回 x 転倒後または3年
ステアリングヘッド	軸受の遊び点検	・		
ステアリングヘッド	グリスアップ		x	
金属面	ワックス塗布 (ブレーキディスク除く)			・ 少なくとも 半年に1回
ハブ	軸受の遊び点検	・		
ハブ	グリスアップ		x	
ペダル	軸受の遊び点検	・		
ペダル (ビンディング)	固定部分の清掃	・		
ディレイラー	清掃・注油	・		
クイックリリース/ スルーアクスル	固定状態点検	・		
ボルト・ナット	点検および締め直し	・		
バルブ	位置確認	・		
ステム/シートポスト	取り外してグリスアップ カーボンにはアッセンブリー ペースト塗り直し(要注意:グ リス不可)		x	
ケーブル:変速機/ ブレーキ	取り外してグリスアップ		x	

・の印がついた点検項目は、手先が器用で、ある程度の経験があり、トルクレンチなどの適切な工具をお持ちの方であれば、ご自分でお子様と一緒に実施できます。点検の結果不具合が見つかった場合には、すぐに適切な措置をとってください。ご質問やご相談は弊社のホットライン 050-3786-8496 がお答えします。
xの印がついた作業は、最近の自転車の技術に詳しい専門業者（自転車整備の資格を持ったスタッフががいる自転車店など）に依頼することをお奨めします。お問い合わせは、弊社のホットライン 050-3786-8496 にどうぞ。

推奨締め付けトルク

コンポーネント	ボルト	Shimano*	SRAM**
ディレイラー	ブラケット軸取り付け ケーブル固定ボルト プリーケーシングボルト	8~10 Nm 5~7 Nm 3~4 Nm	8~10 Nm 4~5 Nm
シフトレバー	シフトレバーユニット固定ボルト 穴キャップ クランプバンド固定ボルト (六角穴)	5 Nm 0.3~0.5 Nm 5 Nm	2.5~4 Nm
ハブ	調整ナット	0~25 Nm	
フリーハブ	スプロケットロックリング	40 Nm	
クランクセット	クランクボルト (グリスなし 四角) クランクボルト (シマノ・オクタリンク) クランクボルト (シマノ・ホローテックII) クランクボルト ISIS クランクボルト ギガパイプ チェーンリングボルト	35~50 Nm 35~50 Nm 12~15 Nm 8~11 Nm	31~34 Nm 48~54 Nm 12~14 Nm (スチール) 8~9 Nm (アルミ)
密封式カードリッジボトムブラケット	シエル (シマノ・ホローテックII) SRAMギガパイプ オクタリンク	35~50 Nm 50~70 Nm	34~41 Nm
ペダル	ペダル軸	35 Nm	31~34 Nm

* www.shimano.com
** www.sram.com
コンポーネントメーカーの取扱説明書が付属している場合には、その取扱説明書記載の値もご確認ください。



i この他のコンポーネントには、コンポーネント自体に締め付けトルクが表示されています。シールやプリントに記載されている値に従ってください。



Canyonフレーム

ボトルケーシングボルト	5 Nm
交換式ディレイラーハンガー	1.5 Nm

Canyonシートポストクランプ 3~5 Nm

Canyon Kid's MTBに固定用のクイックリリースがついている場合には、「クイックリリースとスルーアクスルの取り扱い」の項をご覧ください。

ステムメーカーやシートポストメーカーの指定値がコンポーネント自体またはその取扱説明書に別途記載されていない場合には、以下の締め付けトルクが適用されます。

ステム

M5ボルト	4.5~5.5 Nm
M6ボルト	8~9.6 Nm
アヘッドステムの調整ボルト (キャップ内)	0.5~2 Nm

シートポスト

サドルクランプ固定ボルト	
▶ ボルト1本締めタイプ	20~24 Nm
▶ ボルト2本締めタイプ 前後配置型	6~9 Nm
▶ ボルト2本締めタイプ 左右配置型	12~14 Nm

i Canyonの走行の安全を確保するためには、各コンポーネントのボルト締め付け時に細心の注意が必要で、その締め付け状態を定期的に点検する必要があります。この作業に最適なのは、望ましい締め付けトルクに達した瞬間に空回りするタイプのトルクレンチです。

必ず、締め付けトルクを弱い状態から徐々に最大締め付けトルクまで上げてゆくようにして、コンポーネントが確実に固定されているかどうかを確認する方法は、各項の解説に従ってください。

締め付けトルクの範囲がわからないパーツは、締め付けトルクを少しずつ上げてゆくようにして、こまめに各項の解説に従ってコンポーネントが確実に固定されているかどうかを確認してください。最大締め付けトルクを絶対に超えないようにしてください。

i コンポーネントの多くには、コンポーネント自体に締め付けトルクが表示されています。シールやプリントに記載されている値に従ってください。

i 必要に応じて付属のコンポーネントメーカーの説明書もご確認ください。また弊社ホームページ www.canyon.com でもご確認ください。

ディスクブレーキ

	Shimano	Magura	Avid	Formula
キャリパーのフレーム/フォーク固定 ボルト	6~8 Nm	6 Nm	5~7 Nm (後) 9~10 Nm (前)	9 Nm
ブレーキレバークランプバンドのボ ルト	6~8 Nm	4 Nm		
ボルト1本締めクランプ			4~5 Nm (Juicy 5)	
ボルト2本締めクランプ			2.8~3.4 Nm (Juicy 7/カー ボン)	2.5 Nm
レバー側ホースのCONNECTINGボ ルト	5~7 Nm	4 Nm	5 Nm アルミクランプ	5 Nm
および通常のホースキャリパー側			7.8 Nm スチールクラ ンプ	
キャリパー側ホースのバンジョーボルト (ディスクチューブホース)	5~7 Nm	6 Nm		
キャップボルト	0.3~0.5 Nm	0.6 Nm		
エア抜き穴のイモネジ	4~6 Nm	2.5 Nm		
ハブのローター取付ボルト	4 Nm	4 Nm	6.2 Nm	5.75 Nm
ブレーキレバー側のバンジョー				8 Nm



ブレーキに関する作業をする時には
必ずブレーキメーカーの取扱説明書
を読んでください。



Canyon Bicycles GmbH
Karl-Tesche-Straße 12
D-56073 Koblenz